

サッカーゴールキーパーに多いスポーツ外傷・傷害について

林 将志 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 高橋 正行

キーワード：サッカー、ゴールキーパー、外傷・傷害

1. 緒言

サッカーは、世界で最も競技人口が多いスポーツと言われている。競技人口の増加に比例してスポーツ外傷・傷害も増える。サッカーには唯一手の使えるゴールキーパーというポジションがある。ゴールキーパーは下肢への負担の他に体ごと飛び込むプレーや腕を使うプレーが多くなり上肢への負担も多い。このことからどのような状況でゴールキーパーのスポーツ外傷が起きているのかを調べ、予防・軽減することを本研究の目的とする。

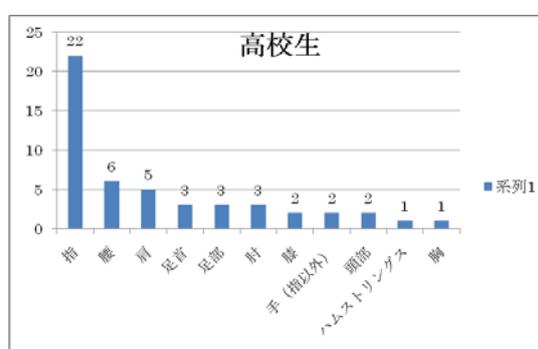
2. 研究方法

びわこ成蹊スポーツ大学主催の 2010 サマーキャンプに参加した高校生 32 名とびわこ成蹊スポーツ大学サッカー部に所属するゴールキーパー18 名を対象に無記名の質問紙による調査を行った。

3. 結果と考察

今回の研究の結果、高校生 (図)、大学生共に指の怪我が圧倒的に多いことが分かった。傷害名別では高校生、大学生共につき指と骨折が多い結果となった。大きな部位別では下肢の傷害だけ高校生と大学生の間に差が見られた。月別では、6月、7月が多く、大学生は9月、8月が多かった。これはどちらも疲労の蓄積が原因であると考えられる。予防をしていたかという質問に対して、高校生、大学生共に「はい」と答え

ていたが予防をしてもこれだけ怪我をしてしまう事から選手一人一人がもっと予防に対して理解し、さらに高い意識を持つことが必要だと考える。



4. まとめ

本研究では、サッカーのゴールキーパーには指の怪我が圧倒的に多いことが分かった。今後怪我を減らすためには選手個人の集中力や予防に対する意識の向上が不可欠である。また、指導者側もゴールキーパーの特性を理解し、どのような怪我が起こりやすいのかを知っておくと共に予防対策を考えておく必要がある。

参考文献

- 1) 堀 裕也 (2009) 大学サッカー選手におけるスポーツ外傷・障害に関する研究 びわこ成蹊スポーツ大学卒業論文
- 2) 国際サッカー連盟 FIFA ホームページ <http://www.fifa.com/index.html>